

第67回こどもの読書週間(4月23日～5月12日)

子どもたちにもっと本を！との願いから「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)に始まりました。もともとは5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日～14日)でしたが、2000年より今の4月23日(世界の本の日・子ども読書の日)～5月12日になりました。

今回の標語は「**あいことばはヒ・ラ・ケ・ホ・ン!**」。本を読むことで磨かれた感性を持った豊かな人生を送ってほしい、感受性豊かな今の時期こそ、1冊でも多く本を読んでほしいと心から願っています。

5月の新着予定本(全29冊)

カフネ/阿部暁子/講談社

一緒に生きよう。あなたがいると、きっとおいしい。やさしくも、せつない。この物語は、心にそっと寄り添っている。法務局に勤める野宮薫子は、溺愛していた弟が急死して悲嘆にくれていた。弟の元恋人・小野寺せつなに会い、やがて彼女が勤める家事代行サービス会社「カフネ」の活動を手伝うことに。食べることを通じて、二人の距離は次第に縮まっていく。

2025年本屋大賞 受賞



月収/原田ひ香/中央公論新社

それぞれの月収に見合う生活を送る6人。欲しいもの、不要なもの、そして、お金では買えないもの。月にいくらあったら幸せ？大ベストセラー『三千円の使いかた』と一緒に読んでほしい話題作！



月とアマリリス/町田そのこ/小学館

北九州市の高蔵山で一部が白骨化した遺体が発見された。地元のタウン誌でライターとして働く飯塚みちるは、元上司で週刊誌編集者の堂本宗次郎の連絡でそのニュースを知る。遺体の着衣のポケットの中には、メモが入っていた。部分的に読めるその紙には『ありがとう、ごめんね。みちる』と書かれていた。自分と同じ「みちる」という名前、中学生のころから憧れ、頑張り続けた記者の仕事。すべてから逃げたままの自分でいいのか。みちるは、この事件を追うことを決めた。



繪馬と脅迫状/久坂部羊/幻冬舎

医者、患者、病氣、医学部、医学研究、医療。生まれてから死ぬまで、人は病院と医者から離れられない。「医」と「病」をめぐる6篇の傑作短編小説集。



「地震」と「火山」の国に暮らすあなたに送る 大人のための地学の教室/鎌田浩毅/ダイヤモンド社

地震と津波が起こる理由、マグマだまりと噴火のしくみ、富士山噴火と首都圏壊滅の可能性、今後必ず起きる南海トラフ巨大地震…京大人気教授による「世界の見え方が変わる」地球科学入門。1000年ぶりの「大地変動の時代」に知っておきたい地球の真実。一家に一冊、備えておきたい科学の本。



ラーメンの神様が泣き虫だった僕に教えてくれたなによりも大切なこと「お茶の水、大勝軒」田内川真介の変えない勇気/北尾トロ【著】/田内川真介【述】/文藝春秋
伝説のラーメン職人・山岸一雄(旧東池袋『大勝軒』創業者)が小学生でつけ麺の虜になった愛弟子に伝えたかった、全力で生きるための「味」と「心」。



4月末クラス別利用状況

クラス 学年	1組	2組	3組	4組	職員	計	総計
1年	1	0	4	0		5	28
2年	3	0	0	0		3	
3年	1	4	5	1		11	
職員					9	9	

その他

※下記の赤字の本は今年度の青少年読書感想文全国コンクール課題図書

- ・銀河の図書室/名取佐和子/実業之日本社
- ・夜の日記/ヴィーラ・ヒラナンダニ/作品社
- ・「コーダ」のぼくが見る世界 聞こえない親のもとに生まれて/五十嵐大/紀伊國屋書店
- ・おいしくってありがとう 味な副音声の本/平野紗季子
- ・天使は見えないから、描かない/島本理生
- ・ミアキス・シンフォニー/加藤シゲアキ
- ・熊はどこにいるの/木村紅美
- ・冷たい骨に化粧/丸木文華
- ・問題。以下の文章を読んで、家族の幸せの形を答えなさい/早見 和真
- ・逃亡者は北へ向かう/柚月裕子 etc

